スローガン
信教の自由を守ろう
宗教協力を進めよう
世界の平和に貢献しよう

新宗教新聞

2011年（平成23年）
6月25日
第1019号
URL：http://www.shinshukyo.com

発行所
新宗教新聞
151－0053
東京都渋谷区代々木5丁目57番10号
電話（03）3468－5588（代表）
振替口座 00180－4－11710
大阪支社 550－0006大阪市西区江之子島1丁目8番21号111
電話（06）6443－7178

第1次 救援ボランティア派遣を開始

RQ市民災害救援センターの唐桑VCへ

新宗連青年会

がれき撤去、清掃、様々な依頼に対応

他団体と協働も

新日本宗教青年会連盟（新宗連青年会、保積志弘委員長）は、5月30日から東日本大震災の第1次救援ボランティア派遣を開始した。今回の派遣先は、宮城県気仙沼市唐桑町にあるRQ（レスキュー）市民災害救援センター唐桑ボランティアセンター（唐桑VC）。RQは、新宗連青年会が阪神・淡路大震災や新潟中越地震などの支援活動で協働した西田真哉氏（トヨタ白川郷自然学校校長）が現在、中心メンバーとして参画していることから、西田氏からの協力要請に応え、新宗連青年会も5月30日から唐桑VCの運営に携わっている。

唐桑小学校のプール清掃。児童らと共に底の汚れを落とす

住宅地の側溝の土砂などを取り除き、水路を復旧させる

唐桑VCは、カキの養殖など漁業が盛んで有名な宮城県気仙沼市北東端の唐桑半島、巨釜（おおがま）にあるドライブインレストラン「海岸亭」オーナーの厚意により、レストラン内に事務所を置き、4月2日から活動を開始している。

新宗連青年会は、5月10～13日にかけて派遣した新宗連第3次調査隊で確認した現地状況やニーズを踏まえ、加盟の各教団に募集を開始。6月21日現在、34人がボランティア登録を行い、現地での支援活動に従事している。

唐桑VCの包括地域は唐桑半島全域と、南端は気仙沼市鹿折地区から気仙沼市の最北端大沢地区を越え、要請に応じて岩手県大船渡市や陸前高田市でも作業を行っている。津波被害に遭った家屋清掃や片付け、がれきや漂着物の撤去、海岸清掃、水路の復旧、小・中学校のプール掃除、避難所から仮設住宅への引越し手伝いや生活物資の提供など、地域住民からの依頼に応じている。

ボランティアの中にマッサージ師がいた期間には、長期の避難生活で心身ともに疲労している人々に癒しの時間を作ろうと、マッサージと茶菓子を提供する「ほっこり隊」というプログラムを企画し各避難所を巡った。

また、RQが人力で集め、分別したがれきを「天理教災害救援ひのきしん隊」が、重機を用いて集積場へ運搬するといった作業を行うこともあり、同じ地域で活動する他団体との協働や協力、個々の特性を活かしながら、復興再生に向け活動を続けている。

新宗連青年会の第1次派遣は6月30日で終了するが、RQが7月以降の救援活動継続を決めたことから、7月以降のボランティア派遣、協力体制について現在調整を進めている。

津波の被害に遭った家屋の清掃と片付けに取り組む

1200万円の拠出を決定

第2次救援 6団体へ

「国際救援基金」から

新宗連

東日本大震災 復興支援

JENの牡鹿半島でのがれき撤去。外国からも多くのボランティアが参加（6月6日、荻浜小学校脇の沢、JEN提供）

新日本宗教団体連合会（新宗連、岡野聖法理事長）は6月9日の理事会で、東日本大震災の復興支援に向け、「国際救援基金」から1200万円の拠出を決定した。

新宗連では、さる3月に第1次緊急救援として500万円を同基金から拠出。今回は、それに続く第2次救援となる。

①AMDA（菅波茂代表）「東日本大震災国際奨学金」500万円。

2011年度から3年間、被災地で卒業後に医療従事者を目指す高校生を対象に、各学年5人へ奨学金を支給。現在、岩手県・釜石高校と大槌高校、宮城県・志津川高校で実施。

②あしなが育英会（玉井義臣会長）「東日本大震災・津波遺児募金」300万円。

大震災で、保護者などが地震・津波により死亡、行方不明となったり、それが原因で著しい後遺障がいを負った家庭の子どもを対象に、「特別一時金」を支給。

③東京自殺防止センター（内山彪理事長）「傾聴ボランティア活動」100万円。

研修を受けたボランティアが、被災地で3日間被災者の心に寄り添う傾聴ボランティア活動を実施。今後3年間を予定。

④被災地NGO協働センター（村井雅清代表）「東日本大震災救援活動」100万円。

岩手県遠野市で市役所、社会福祉協議会、青年会議所、NPOと連携し、「遠野被災地支援ボランティアネットワーク」を設立し、避難所の運営協力、炊きだし、足湯などを実施。

⑤シャンティ国際ボランティア会（若林恭英会長）「東日本大震災被災者支援活動」100万円。

宮城県北部から岩手県南部の沿岸地域で、被災地の復興に向けた活動を実施。避難所での入浴サービス、子どもの遊び場づくり、移動図書館活動など。

⑥JEN（吉岡健治／赤川惠一共同代表）「東日本大震災・緊急支援」100万円。

宮城県石巻市を中心に被災者への支援活動を実施。がれき撤去、仮設住宅入居者への生活物資支援、「コミュニティーカフェ」（心のケア）の運営など。

仏全 子供達への影響を懸念

原発事故の収束も切望

理事長談話を発表

全日本仏教会（全仏、有田惠宗理事長）は6月10日、原発事故についての理事長談話を発表した。

談話では、震災による福島第1原発事故により、安全神話がもろくも崩れ、近隣住民は避難を強いられ、乳幼児や児童をもつ多くの家族が健康被害を心配し不安な生活を送っていること。また、いまだ放射性物質が広範囲の地域・海洋に飛散し特に乳幼児さらには将来生まれてくる子どもたちへの影響を懸念いたします」と表明。

そして政府および東京電力、関係者に「被害者の方々への支援とともに子どもをもつ家族の不安を和らげるべく対策を講じ、一日も早く福島第1原子力発電所の炉心事故を収束していただきたく、切望します」と結んでいる。

節電啓発活動 スタート

7月1日～9月30日「参加型の国民運動」へ

寄せられた多様な創意工夫、アイデア

新宗連は6月9日の理事会で、東日本大震災後の電力需給問題への取り組みとして、電力使用量の削減を求める「電力ダイエット」の啓発推進活動を行うことを決めた。

期間は7月1日から9月30日までの3カ月間で、電力需要の高い平日の午前9時から午後8時を中心に、各教団を通して取り組みを呼びかけていく。

新宗連は二酸化炭素削減を求め、2004（平成16）年1月から3月、約3万世帯が参加して第1次電力ダイエット運動、2005（同17）年7月から9月、約4万5000世帯が参加して第2次電力ダイエット運動、2007（同19）年10月には約6万5000世帯が参加して第3次電力ダイエット運動を展開した。

いずれも、「生かされている地球にありがとう」をテーマに、環境問題は人間の問題ととらえ、一人ひとりが環境（自然）と生活のあり方を考え、自然の営みに合わせて「環境負荷の少ない生活」、ライフスタイルの転換を目的にしたものだった。

今回、政府の電力需給緊急対策本部（現在は電力需要に関する検討会議）は、東日本大震災による東京電力、東北電力の電力供給の減少により、一時的に両電力管内の地域で「計画停電」を実施した。

4月8日には、計画停電は「実施が原則」から「不実施が原則」に転換したものの、夏場を迎えるに当たって、5月13日に契約電力500kw以上の大口事業者、同未満の小口需要者、家庭に分け、大幅な電力抑制を求め、「参加型の国民運動の喚起」を提示している。

新宗連の総支部によっては、電力ダイエット運動を継続しているところもあり、これまでの経験を生かしながら、当面は啓発活動を中心に進めていく。本紙でも啓発キャンペーンを行っていく。

第2次電力ダイエット運動では、参加者からさまざまな創意工夫、アイデアが寄せられた。次に『同運動アンケート』から、その一部を紹介する。

・冷蔵庫を壁から30㎝離す。
・乾燥機で衣類を乾燥させるとき、乾いたバスタオルを1枚入れた。
・早寝早起きを心がけた。
・朝顔、ゴーヤなど、ツタ植物を窓の周りに這わせた。
・電気だけでなく、水道や買い物に気をつけた。
・子どもと話し合い、ゲームやテレビの時間を決めた。
・これまで以上に同じ部屋で家族がだんらんした。

家電製品の節約の目安

■エアコン　夏は28度、冬は20度設定／夏27度から28度へ（年間約670円の節約）、年間30・24kWhの削減。冬21度から20度へ（年間1170円の節約）、年間53・05kWhの削減。

■温水洗浄便座　使わないときはフタを閉める（年間770円の節約）、年間34・9kWhの削減。

■冷蔵庫　物を詰め込みすぎない（年間960円の節約）、年間43・84kWhの削減。設定温度は適切に（年間1360円の節約）、年間61・72kWhの削減（設定温度を強から中に変えた場合）。

（省エネデータは、省エネルギーセンターなどによる）

第3次支援を決定

東日本緊急支援
合計2900万円
WCRP日本委

（庭野日鑛理事長）は6月17日、東日本緊急支援の第3次支援を決めた。

今回の支援の合計は2900万円。これまでWCRP日本委の緊急支援が届いていない社会福祉協議会などに寄託される。

これまでの募金総額は、約2億1000万円になった。

世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会

マザー・テレサのうた

住吉の　御田植祭の　賑（にぎわ）いや
大空の　星の悲恋や　天の川
もろもろを　茅輪くぐりて　はらいけり
かしはら　ふさこ

日本は火を噴く山と地震（なゐ）、台風。今年は入梅が早く戸惑います。世界中、気象異変や政変！　落ち着いて、でも猫の目玉程変わるとかないまへんな。無事を祈る、祈ることは空を掴むようやけど、神仏はお見捨てにはなりません。

合掌

芸術生活社
【芸生文庫】
高齢期を快く生きるための“人生の道しるべ”
老春謳歌（ろうしゅんおうか）
長生きの秘訣
御木徳近著　パーフェクト リバティー教団第二代教祖が、宗教家としての悟りと長い人生経験、多くの人との出会いから、高齢期を心豊かに暮らすための新しい生き方を提唱する。■定価700円（税込）
〒150-0047東京都渋谷区神山町16-1
電話03-3469-1153　FAX03-3465-6867

法律文化社
宗教関係者必携の書
石村耕治編著
宗教法人法制と税制のあり方
●信教の自由と法人運営の透明性の確立
公益法人制度改革が進められるなか、宗教法人が社会的責任を果たすために、いま何が求められているか。宗教法人法制と税制のあるべき方向と今日的課題を提示する。
A5判／260頁／3150円
京都市北区上賀茂☎075（791）7131（税込）

奉祝!! 第62回神宮式年遷宮
神宮祭祀の研究　中西正幸（国学院大学教授）
伊勢の神宮では、四季の彩りゆたかな恒例・臨時の諸祭典がとり行われている。そうした祭祀の淵源をたどると、とおく神祇令に神嘗祭と神御衣祭とを初見し、神宮最古の文献というべき延暦二十三年（八〇四）の両宮儀式帳に、年中恒例祭や式年遷宮祭を掲げる。祈年祭・三節祭・踏歌節会などの主たる祭祀が古代において成立したことを前提として、本書では神宮の年中行事、恒例祭・諸祭・行事、式年・臨時祭、御料・職役、明治新祭式について多数の写真・図版で神宮祭祀に関する論考を集大成。
神宮式年遷宮の歴史と祭儀　中西正幸
神宮における遷宮関係の技術と知識の集積は、千三百年にわたる式年遷宮の歴史と伝統に相応しくそれこそ千古の生きた伝統の結晶の奥深さがあろう。殊に神宮文庫に所蔵される典籍・記録類は夥しくしかも貴重なものである。本書では、神宮式年遷宮を総説・歴史・祭儀・造営・神宝の諸領域に分け、その現状と課題を概観。平成十年（大明堂刊）の復刊。五二五〇円
国書刊行会　TEL 03-5970-7421　FAX 03-5970-7427
〒174-0056 東京都板橋区志村1-13-15
http://www.kokusho.co.jp（税込価）

税金・保険料（国保・介護・年金）が安くなる
世帯分離活用術
太田哲二著　A5判二六四頁 定価一、二〇〇円＋税
一、〇〇〇万人が得をする!!
所得税・住民税・保険料・後期高齢者医療費・保育料・就学援助にメリットある家計を守る教科書
アートアンドブレーン　TEL 03-5327-3766　FAX 03-5327-3767
〒166-0001 東京都杉並区阿佐谷北1-8-22-201
http://www.artandbrain@dance.ocn.ne.jp

佼成出版社
日野原重明氏推薦
もう、悩まない
飛騨千光寺住職 大下大圓
スピリチュアリティの世界を求める方にお勧めの一冊。●1575円
「形」でわかる仏像入門
西村公朝 仏師
名仏師が語る仏像鑑賞のツボ。仏像の形から「仏の心」を読み解く。●1470円
重版出来!
図説ヨーガ大全
伊藤武 健康法として知られるハタ・ヨーガの真髄を、イラスト・図表多用で平易に解説。●3990円
東京都杉並区和田2-7-1〈価格税込〉
☎03(5385)2323 FAX03(5385)2334
http://www.kosei-shuppan.co.jp/

八朔社 価格税抜
戦争と追悼　靖国問題への提言
菅原伸郎編著　廣熊隆・幸日出男・児玉暁洋・本多静芳・池田行信・稲垣久和執筆
靖国神社が国家と特別な関係になることは「政教分離」の原則と「信教の自由」に反する。だから、軍国主義時代からつづく不透明なつながりを断ち切ることが緊急の課題だ。そのために非戦の意志を確認し、平和建設のための新たな追悼施設が必要といわれるが。
二一〇〇円
〒162-0825　東京都新宿区神楽坂2-19
☎03-3235-1553　FAX 03-3235-5910

日本仏教通史の決定版誕生!!
日本仏教の変遷が一目でわかる八宗総覧の画期的構成
初めての本格的、日本仏教宗派歴史事典
日本仏教編年大鑑
好評発売中
主要人名・主要寺院関連用語解説　索引付
【監修】大久保良峻・山口耕栄・宇高良哲　千葉乗隆・竹貫元勝・廣瀬良弘・渡邊寶陽
B5判 並製 576頁 定価18,000円＋税
お申し込みは
仏教専門図書／いのちとこころの関連図書
株式会社 四季社 S係
〒171-0021 東京都豊島区西池袋5-26-16
TEL 03-5995-1221 FAX 03-5995-2181
http://www.shikisha.co.jp

現代世界と宗教の課題
—宗教間対話と公共哲学—
星川啓慈・山脇直司・山梨有希子・斎藤謙次・濱田陽・田丸徳善 著
環境・貧困・紛争などの現在の地球的危機に対して宗教は無関心でいられないばかりか、その解決のための公共的責任を負う。各宗教は問題解決のため、その独自性を尊重しつつも、協働しあえるヴィジョンの追求のために対話しなければならないことを訴える。
四六判上製・定価2310（税込）
蒼天社出版
〒112-0011 文京区千石4-33-18
TEL 03-5977-8025 FAX 03-5977-8026

公益財団法人への移行

来年4月1日に登記へ

第5回理事会を開催
22年度決算等を承認

新宗連

新日本宗教団体連合会(新宗連、岡野聖法理事長)は6月9日午後2時から、兵庫県丹波市の円応教本部で第26期第5回理事会を開催した。

開会に当たり、世界平和祈念と先達への感謝、そして東日本大震災による犠牲者への冥福と被災地の一日も早い復興を祈念して黙祷を捧げた。

円応教の赤銅重夫理事長が受け入れあいさつを、岡野理事長が開会あいさつをそれぞれ行った。

中部総支部会長に選出された田中庸仁真生会会長に、岡野理事長から委嘱状が渡された後、審議事項に入った。川端健之企画委員長が平成22年度事業報告を行い、同決算案については、財務委員長の宮本けいし副理事長が概要報告、樅山哲央参与が決算書の説明を行い、左藤滋光監事の監査報告の後、それぞれ原案通り承認した。

公益財団法人移行については、60周年特別委員長の宮本副理事長が5月27日に内閣府に移行認定申請書を提出したことを報告。

また、申請書受理の後、内閣府との補正を行いながら、約4カ月で公益認定の答申となり、内閣府の方針変更で来年4月1日の日曜日に登記が可能となったことから、会計処理を的確に進めるため4月1日に登記をすることを提案し、原案通り承認した。

10月17日に開催する新宗連結成60周年記念集会について特別委員会の新井光興記念事業部会座長が参加案内を行い、岡野英夫記念集会副実行委員長がプログラムの内容を説明した。

東日本大震災・復興支援活動について、すでに国際救援基金から1000万円の拠出を決めているが、さらに追加支援を行うことにした。また、電力削減が求められており、これまで2回の電力ダイエット運動の体験を生かし、啓発活動を推進すること、今秋、被災地で新宗連主催の慰霊祭(日時、場所、内容未定)を行うことを決めた。

第1版 解説書で意見交換
60周年特別委

新宗連60周年特別委員会(宮本けいし委員長)は6月2日午後1時半から、東京・代々木の新宗連会館で第14回委員会を開催した。

公益財団法人移行へ向けて、5月27日に内閣府へ移行認定申請書を提出。登記については内閣府の方針変更により来年4月1日の日曜日に登記が可能となったことが報告された。

協議事項では、事務局が作成した「公益財団法人への移行について・解説(第1版)」の内容について意見交換を行い、Q&Aの追加などを行い、6月16日の全国総支部会議で配布することを申し合わせた。

10月17日に開催する60周年記念集会については、進捗状況が報告され、プログラムの内容などについて意見交換を行った。

この後、各種委員会、新宗連青年会の報告が行われた。また、6月1日に入滅した橋本浩志職員の紹介とあいさつがあった。

京都で全国総支部会議
諸報告、自由に意見交換
9月に〝調整会議〟を

新宗連

新宗連の第26期第2回全国総支部会議が6月16日午後2時から、京都市の立正佼成会京都教会で開催された。

世界平和と先達への感謝、東北大震災犠牲者の冥福と被災地の一日も早い復興を祈念して黙祷を捧げた後、議長団の鉢呂神龍近畿総支部会長、小川晃央北陸総支部事務局長があいさつを行った。

各総支部の会長、副会長、事務局長の人事異動を事務局が報告。新たに就任した田中庸仁中部総支部会長、松田雄二北海道総支部事務局長、村木康哲四国総支部事務局長、森亮太中国総支部事務局長、花井康次北関東総支部事務局長があいさつを行った。

議事に入り、斎藤謙次事務局長が公益財団法人への移行認定申請を5月27日、内閣府に申請したこと、登記を来年4月1日に行うことなどを報告した。

新日本宗教青年会連盟(新宗連青年会)の保積志弘委員長が「第46回戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典」(8・14式典)、7月2、3日、香川県の善通寺で開催するユースフォーラム2011の概要を報告。さらには震災への支援に感謝を述べるとともに、新宗連青年会が宮城県気仙沼市で展開している震災ボランティア活動の報告も行った。この後、前回総支部会議(2月18日)以降の各総支部の特記すべき活動の報告があった。

斎藤次長、事務局長の人事異動を事務局が報告。新たに就任した田中庸仁中部総支部会長、松田雄二北海道総支部事務局長、村木康哲四国総支部事務局長、森亮太中国総支部事務局長、花井康次北関東総支部事務局長があいさつを行った。

諸報告、自由に意見交換
9月に〝調整会議〟を

新宗連

斎藤次長、事務局長の人事異動を事務局が報告。新たに就任した田中庸仁中部総支部会長、松田雄二北海道総支部事務局長、村木康哲四国総支部事務局長、森亮太中国総支部事務局長、花井康次北関東総支部事務局長があいさつを行った。

議事に入り、斎藤謙次事務局長が公益財団法人への移行認定申請を5月27日、内閣府に申請したこと、登記を来年4月1日に行うことなどを報告した。

新日本宗教青年会連盟(新宗連青年会)の保積志弘委員長が「第46回戦争犠牲者慰霊並びに平和祈願式典」(8・14式典)、7月2、3日、香川県の善通寺で開催するユースフォーラム2011の概要を報告。さらには震災への支援に感謝を述べるとともに、新宗連青年会が宮城県気仙沼市で展開している震災ボランティア活動の報告も行った。この後、前回総支部会議(2月18日)以降の各総支部の特記すべき活動の報告があった。

本部・総支部・協議会の意思疎通図るため、9月に総支部会議を開催することを申し合わせた

報告があった。

協議事項に入り、斎藤事務局長が公益財団法人移行のための総支部、協議会の事業計画の推進と組織のあり方などについて説明、自由に意見交換を行った。

最後に、組織変更に伴う、今後の会計処理について、本部、総支部、協議会で充分な意思疎通を図るため、9月28日に東京で総支部会議を開催することを申し合わせた。

東日本大震災

追加支援案を協議、拠出
企画委

新宗連企画委員会(川端健之委員長)は6月2日午後3時半から、東京・代々木の新宗連会館で委員会を開催した。

新制度への移行に伴い、平成22年度事業計画の公益事業項目を整理した修正版を確認し、次回理事会で承認を得ることを申し合わせた。東日本大震災の復興支援活動については、追加支援案を協議、国際救援基金からNGOら6団体に拠出することとした。

また、電力使用削減・啓発活動案について協議。東日本大震災の原発事故により夏季の電力需給が問題となっているから、これまでの電力ダイエット運動の体験を生かし、啓発活動を推進し、電力使用削減・啓発活動を展開することとした。

このほか、新宗連青年会の震災ボランティア派遣についての報告、福島第一原発事故による放射線問題への対応について意見交換を行った。

理事会提出の決算案を協議
財務委

新宗連財務委員会(宮本けいし委員長)は5月30日午後1時半から、東京・代々木の新宗連会館で第26期第3回財務委員会を開催した。

6月9日に開かれる決算理事会に提出する平成22年度決算案について協議した。

各県で震災犠牲者慰霊供養実施へ
平成23年度総会開く
委員長に浅野俊一氏を選出

青東北連

新日本宗教青年会東北連盟(青東北連、萩原聡委員長)は6月5日午前10時半から、仙台市の大和教団大國神社で平成23年度総会を開催した。

総会は当初、4月3日に開催予定だったが、東日本大震災の影響により延期し、約2カ月ぶりの開催となった。

新日本宗教青年会連盟(新宗連青年会)が作成した「東日本大震災犠牲者追悼祈願文」を全員で奉唱、黙祷した後、受け入れの大和教団を代表して保積秀胤教主があいさつした。

東日本大震災以降、新宗連の各加盟教団や九州総支部など、多くの支援や見舞いに対し、感謝の意を表し、「新宗連はいつも温かい気に包まれ、ゆったりとした時間をいただける場」「今回のご恩に応え、新宗連の魅力を他の団体や多くの方にも伝えて、この温かい血の通う場を大切にしていきたい」と述べ、青年たちに新宗連活動の役割を説いた。

新宗連青年会

はじめに委員長の交代について諮り、萩原委員長に代わり、新たに浅野俊一氏(いずれも大和教団)を委員長に選出した。また、織笠英二相談役の退任に伴い、相沢規雄氏(いずれも立佼成会)が新たに相談役に就任。それぞれが就任と退任のあいさつを述べた。

議事に移り、平成22年度事業報告並びに決算を決定した。さらに、平成23年度の宮城、山形、福島の各県委員会役員体制と活動方針、活動計画について審議した。

今年度は宗教協力活動をさらに推進するとともに、東日本大震災犠牲者の慰霊と被災地支援活動推進を加えた活動方針を決定。各県で、慰霊供養の式典を行うことを申し合わせ、次回委員会以降継続審議する。

この他、総会に出席した新宗連青年会の保積志弘委員長が新宗連青年会の平成23年度事業計画や50周年記念事業について話した後、大滝晃史事務局長が、5月30日から派遣を開始している第1次救援ボランティアの概要等を説明した。

〜〜〜〜〜〜〜〜〜〜

東日本大震災支援への感謝を述べるとともに「新宗連はいつも温かい気に包まれる場」と話す保積教主

新宗連 動き 協議会

「神道とキリスト教は矛盾しない」
「叡智の会」が神戸で講演会

兵庫

兵庫県宗教連盟の有志によって結成された「叡智の会」(濱田諭稔会長)は6月18日午後3時から、神戸市の立正佼成会神戸教会で第7回講演会を開催した。

濱田会長の開会あいさつの後、国際日本文化研究センター共同研究員の上村敏文ルーテル学院大学准教授が「『神が残した指紋』—日本とアマゾン グレートシャーマンの祈り」のテーマで講演した。上村氏は講演に先立ち、ハワイ在住(ミクロネシア文化圏)で、アメリカの教育を受け、日本人とルーツを同じくする日系4世の哲学修士ダニエル・キカワ牧師が日本を研究し、10年前に作成したDVD「神が日本に残した指紋」を上映した。

このDVDでは、日本の歴史と伝統文化の中に創造の神を見出すことができるとしている。一例として、古代に出雲の神社に高い塔があり、その中の「天之御中主大神」が創造神に該当するのではと挙げている。キリスト教が伝来したとき、伝道のために千利休とその弟子から茶道を学んだことなどから、茶道と聖餐式との類似点があるとしている。

上村氏は「日本の文化と伝統を大切にし、私たち日本人が忘れているものを思い出させてくれ、衝撃的な感動を覚えました。古文の第一人者で万葉集を訳した中西進博士にコメントをいただいたとき『天之御中主大神が古事記に出て、日本書紀に出ていなかった。仮説だが、それはキリスト教の影響を受けて後に書き加えられたのでしょう』と見解を示されたことに納得しました」と語った。

「創造神の永遠の力と神性は、被造物を通して知ることができるが、神が手を差しのべられ、日本に残された指紋を見ていきましょう」と、キカワ牧師の考え方を紹介し、「DVDの中で今までのキリスト教側から見ていた考え方に深く陳謝していた」と述べた。

「神道とキリスト道(教)と全く矛盾しない。クリスチャンとはイエスの教えを自分のものとして実践している人」と話し、茶道とキリスト教についての関係性はまだ学問的ではないとしながら、「狭き門より入り、手を清める茶道の儀式と、ローマ法王のミサが似ていた」と指摘した。

この後、矢田立郎神戸市長、井戸敏三兵庫県知事が祝辞を述べた。

茶道と正餐式など日本文化とキリスト教の類似点を話す上村准教授

弓矢八幡で「訪問研修」
小梅採りの体験も

和歌山

和歌山県協議会(福島和恵議長)は5月28日、和歌山県白浜町の弓矢八幡(林馨教主)への教団訪問を行った。

一行は、午前9時過ぎに立正佼成会和歌山教会を出発。車内で福島議長があいさつを行い、参加者25人が自己紹介を行った。午前11時過ぎに弓矢八幡に到着、林教主、林丈嗣副教主、信徒らの出迎えを受け、本殿に正式参拝した。

副教主の林斎主と2人の斎員が入場。斎員が祓詞を奏上、修祓した後、林斎主が祝詞と祈念詞を奏上し、全員で般若心経を奏唱した。

続いて、信徒の楽人・舞人が「安宅大神 熊野水軍安宅党 安宅水軍一族武士之御霊之鎮魂歌」を奉唱し、弓矢八幡鎮魂放生会神楽「剣の舞・梅花の舞」が3歳から小学生までの男女8人により奉納された。

この神楽は、1530年、林マサ教祖の先祖安宅家が家督相続の末、戦いによって遺恨のある「荒御霊」を和ませ、鎮める行として、練習を重ねて2003(平成15)年に確立された。

和歌山県協を代表して福島議長、金森弘安委員長が「玉串奉典」を行った。

あいさつに立った林教主は、教祖への八幡様の啓示により、「二代目として受け継ぎ、本部を造営し、教殿を高台に移転し、一教独立して世に悩み苦しむ人々を救済せよ」との三つの命を受け、それを果たすことができた経緯を述べた。

また、世界宗教者平和会議(WCRP)日本委員会の人権委員長を務めていたとき、長年にわたる在韓被爆者支援、在サハリン残留韓国人一世老人在宅支援活動の功績で、2002年に韓国の金大中大統領から人権委員会と自身が表彰を受けたことを紹介した。

参加者は、林教主らと昼食の後、乗用車に分乗し、信徒の手で開墾された「パイロット梅園」へ移動、安宅一族の慰霊塚で追悼の祈りを捧げた。林副教主から梅園の説明があり、「大雨ですが、雨の神様の中での小梅採り体験をしてください」のあいさつを受け、参加者は、広大な梅園の中で小梅採りを体験した。

3歳から小学生の8人が奉納する弓矢八幡鎮魂放生会神楽「剣の舞・梅花の舞」に見入る参加者

「いのち」の尊さ学ぶ
第16回平和学習会を開催

筑後

筑後協議会(田中一嘉議長)は6月5日午前9時30分から、福岡県久留米市の立正佼成会久留米教会で、「いのち輝く〜私の信仰体験談」をテーマに第16回平和学習会を開催した。

田中議長は開会あいさつで、これまでは講師を招いての学習会が続いたが、今回は各教団の会員・信徒が体験発表を行うことから「手弁当での学習会になりました」と述べた。

体験発表を牧薗幸司(パーフェクト リバティー教団)、山浦英男(善隣教)、永松里江子(立正佼成会)の3氏が行い、「苦」をそれぞれの信仰により救われた体験を語った。この後、グループ・ミーティングを行い、お互いの信仰を理解し交流を深めた。新宗連歌「いのち輝く」を斉唱し、石原清嗣副議長が閉会あいさつを述べた。

「体験発表では、『いのち』の尊さに気付かされた『それぞれの教えの根本はほとんど同じと気づいた。新宗連の取り組みにあらためて感謝した」など感想が寄せられた。

救われた体験を語り、お互いの信仰を理解し交流深める

前期活動助成先を決定
日本宗教ネットワーク活動助成審査会「葬送支援」へ

日本宗教ネットワーク活動助成審査会は6月2日午後、東京・代々木の新宗連会館で審査会を開催し、平成23年度の前期活動助成を「葬送支援ネットワーク」(中下大樹代表)に送ることを決定した。

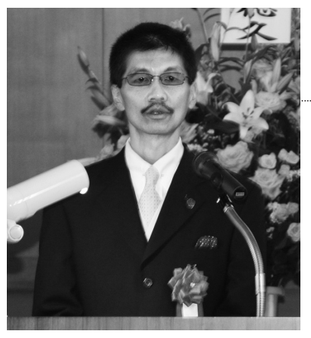
同ネットワークは2009年4月、すべての人に尊厳ある弔いと供養をすることを目的に結成された。今回の申請理由は、東日本大震災の被災地で犠牲となった人々の遺体の搬送や供養を地元の人と実施しているほか、犠牲者の遺族、遺体が見つからない家族へのメンタルケアとサポートの活動を行っていることと、今後も持続的に活動を継続するため。

期待される成果として、弔いの意味、宗教の役割を今こそ果たすとともに、無縁社会を有縁社会に変えていくこととしている。

宗教をめぐるさまざまな問題のご相談窓口
宗教もしもし相談室
03 3466-9900
受付●月曜→金曜／午後1:00→4:00
財団法人 新日本宗教団体連合会

発会70周年迎え式典

第四代総裁就任式を挙行
出居総裁 教えを継承し開かれた教団へ
修養団捧誠会



▲記念シンポでは、捧誠会の研究者らが歴史を振り返り提言した
◀「開かれた捧誠会へ」と出居総裁

修養団捧誠会（出居徳久総裁）は6月19日午前11時から、東京・池袋の本部平和郷で「発会70周年記念式典並びに第四代総裁就任式」を挙行した。出居第四代総裁は今年3月13日、「高萩聖地祭」で故出居茂第三代総裁の後任として、第四代総裁の推戴が発表された。

式典に先立ち、東日本大震災の犠牲者の冥福を祈り黙祷を捧げた。青木正孝副会長が開式の辞を述べ、出居第四代総裁が「いのりのことば」を奏上。「教祖礼拝の辞」「神法」「綱領並びに典範」奉読が続いた。

木島一郎会長があいさつに立ち、出居清太郎教祖が1941（昭和16）年6月21日、修養団捧誠会を発会するに至った経緯を、教祖の「お言葉」を引きながら紹介。「教祖から託された恒久平和顕現を、心において前進してまいりましょう」と呼びかけた。

第四代総裁就任式となり、教祖、出居菊の第二代総裁、出居茂第三代総裁の「お言葉」（録音）が流された後、出居第四代総裁が登壇しあいさつ。冒頭、「今日の日の喜び胸に一歩ずつ」と句を詠み上げ、就任を受け、教祖から受け継がれてきた「みおしえ」を継承していくことを宣言。「広い温かい、開かれた捧誠会を目指し、新しい時代を築いてまいりたい」と決意を述べると、会場から大きな拍手が送られた。この後、出居総裁に木島会長、子どもたちから花束が贈られた。

祝辞を島薗進東京大学院教授、本山一博玉光神社権宮司（新宗連理事）が述べ、全国会員からの祝電が披露された。この後、東北地方の会員4人が東日本大震災に際し、本部からの支援に対する謝辞を述べた。

「捧誠会歌誠歌」を斉唱、青木恒春顧問の発声で乾杯した。

午後1時半から、特別企画の記念シンポジウム「これからの私たちのライフスタイル―今、一人ひとりの生き方が問われています」を開催。パネリストは松岡秀明淑徳大学教授、山田真茂留早稲田大学教授、永井美紀子国學院大學・立教大学兼任講師、修養団捧誠会会員の松本宏一、下津屋忠則、中島弘子の6氏。コーディネーターは、昭和女子大学教授で修養団捧誠会副会長の山本博也氏。松岡、山田、永井の3氏は島薗教授のもと修養団捧誠会の研究に努めた経歴を持ち、修養団捧誠会の歴史、教えの特徴などを示した。

白金龍昇宮で式典
世界平和と人類の幸福祈る 七曜会

東京・渋谷区の七曜会（眞塩慈照教主）は6月20日午前11時半から、東京・中野の「白金龍昇宮」で建立記念式典を執り行った。

教団創始者の溝上恵照師が1951（昭和26）年6月、中野区城山町（当時）に現れた黄金の龍を国土の神として祀り、白金龍昇宮を建立した。また、日月火水木金土の「七曜の神霊」も祀り、世界平和と人類の幸福を祈る宮としている。

眞塩陽一郎理事長のあいさつの後、眞塩理事長の導師で参列者が「七曜の信条」「光明の道」を奉唱し、「般若心経」を唱えた。

午後の直会では白金龍昇宮の建立を祝い、和やかなひとときを過ごした。

あいさつを行う眞塩陽一郎理事長

開祖らの足跡偲ぶ
開基102周年教祖祭典を斎行
霊太加納教院

北海道深川市の加納太霊教院（加納理孝院長）は6月15日午後1時から、拝殿で「開基102周年教祖祭典」を斎行した。この祭典は、開祖である加納包球師の誕生日を記念し、併せて開祖の遺志を引き継いだ歴代院長の遺徳を称え、感謝するもの。

加納院長を斎主に、修礼、修祓、開扉を厳かに執り行った後、斎主が「教祖祭詞」を奏上した。次いで、「礼拝詞」を加納三慶副院長の先達で全員が奉読した後、斎主と来賓、参列者による玉串奉奠が続いた。

午後2時から、信徒総会。加納院長は式辞で、開基102周年を迎える教団の沿革を説明し、開祖の足跡を偲ぶとともに、歴代院長への感謝、先祖への感謝を説いた。

来賓の解脱会旭川一条通支部長の渡辺英二氏と松緑神道大和山旭川教区長の木戸澄夫氏が祝辞を述べた。教務報告を加納院長が行い、さらなる支援と協力を呼びかけた。

この後、全員で万歳三唱し、信徒総会を終了した。

午後3時過ぎから祝賀会が催され、福引抽選会なども行われた。

教団の沿革を説明する加納院長

御守護尊神大祭 第50回信行聚大会 執り行う
純白の玄題旗を掲げ厳かに
思親会

神奈川県伊勢原市の思親会（飯島法道会長）は6月5日午前11時から、思親大宮殿・大孝堂で「本部御守護尊神大祭・第50回信行聚大会」を執り行った。

参列者が合掌する中、雅楽奉納と開式宣言に続き、高橋愛子婦師が「神託」を奏上した。飯島会長と式員が入壇し、大孝堂後方から、純白の本部玄題旗が入場した。広宣流布の旗印である玄題旗はこれまでのものに代わり、支部長会が新調し、寄贈した。玄題旗は参列者席の中央を通り、壇上で飯島会長に手渡され、宝前に供えられた。

婦人部企画委員らによる「献華献香の儀」に続き、玉串奉奠を飯島会長はじめ役員、法座長、信行聚などの代表者が行った。飯島会長を大導師に参列者で読経供養を行い、飯島会長が表白文を奏上した。

午後1時から第2部が開式した。記念小冊子『感謝の花束』の贈呈が行われ、著者の吉田喜代子顧問から、飯島会長に冊子が手渡された。『感謝の花束』は、吉田顧問が機関紙「思親教報」の1面に2002（平成14）年から6年間にわたり掲載した随想から、抜粋した25編を中心に編纂されたもの。

続いて感謝状授与と辞令交付式が行われ、飯島会長から2人の前役員に感謝状、8人の新役員に辞令が手渡された。この後、「御本尊授与式」が行われ、飯島会長から、2人の信徒に授与され、代表法話が行われた。

飯島会長が「御親教」を行い、玄題旗の新調について説明した後、信仰する中での落とし穴から感謝の心、心の浄化、法華経の実践などについて説き、「人の幸せに寄与することこそが徳です」「小さな徳でも積むことが大切。御守護尊神は慈悲を与えてくれます」など、日々の信仰の在り方を諭した。

純白の新しい玄題旗を宝前に供え読経供養

教祖に感謝捧げる
三大佳節の「御聖旅祭」
霊波之光

霊波之光教会（波瀬敬詞教主）は6月8日午前9時から、千葉県野田市の本部で「御聖旅祭」を執り行った。

同祭は、「御守護神様」と尊称される波瀬善雄教祖が1939（昭和14）年の同日に、重病を抱えながらも、神仏の実在を求めて過酷な聖行に旅立ったことに感謝を捧げるもの。教団の三大佳節の一つとされている。

「世界平和の結合の祈り」を唱和した後、太鼓の二連打で開式となり、天使閣で「二代様」と尊称される波瀬教主が「御祈り」を行った。聖神殿では、理事代表の西村一夫常務理事、役員、信徒の代表が「感謝文」を奏上。波瀬教祖への感謝と、今後の決意などをそれぞれ述べた。

続いて、「聖神之池浄霊之御儀」。これは、波瀬教主が、生命橋、浮流橋から神塩をまいて、聖神之池を清めるというもの。その後、信徒らが清められた聖神之池に「生命札」を流し、先祖の浄霊を祈願した。

儀式などの様子は、聖地内に設置された大型ビジョンに映し出され、参列した信徒らは、映像を通して儀式に参列した。聖地内は、全国から祈願のために訪れた参列者で溢れ、各所に長蛇の列ができていた。また、教祖ゆかりのサツキの盆栽が、いたるところに飾られており、訪れた人々の目を楽しませた。

夏至大祭 夏越の祓い斎行
「迷」と「悟」は背中合わせ
神人会

大阪市の出雲神道八雲教神人会教団（柏原真教主）は6月19、21日の午後1時半から、本部神前で「夏至大祭・夏越の祓い」を斎行した。

東日本大震災犠牲者の冥福を祈り、黙祷を捧げた後、柏原夫佐子教補が斎主となって、「身滌の祓い」（願文）、「三科の祓い」、大祓詞などの祝詞を奏上した。「天地一切清浄の祓い」の後、柏原教補が両手に鈴を持ち「六根清浄の祓い」を行い、参列者の健康などを祈願した。

東日本大震災犠牲者の冥福を祈り、黙祷を捧げた後、柏原夫佐子教補が斎主となって、「身滌の祓い」（願文）、「三科の祓い」、大祓詞などの祝詞を奏上した。「天地一切清浄の祓い」の後、柏原教補が両手に鈴を持ち「六根清浄の祓い」を行い、参列者の健康などを祈願した。

柏原教補が「迷い」について。「人は皆迷います。欲があるからでしょうか。自分の理想通りに事は運びません。悩み迷います。迷と悟は背中合わせで、迷悟一体の教えもあります。迷いをお救いくださるよう、願いましょう」と述べた。

浄土宗浄土寺の流されずに残った地蔵の前で慰霊と早期復興への祈り（仙台市若林区荒浜地区）

ベトナム僧侶ら被災地へ
避難所慰問と慰霊祭を厳修

在外ベトナム人仏教徒使節団は6月1から3日にかけて、東日本大震災で被災した宮城県、福島県を訪問。被災した人々を見舞い、犠牲者への慰霊を行った。

今回の被災地訪問は、ベトナム出身で日本に帰化した立正佼成会の国際仏教教会（IBC）ベトナム支部の顧問であり、曹洞宗で得度している神田徹学（こうだてつがく）氏が、東日本大震災犠牲者慰霊と早期復興を願い、世界各地のベトナム人に呼びかけ実現したもの。使節団のメンバーは、オーストラリア、アメリカ、カナダ、ドイツ、フランス在住の25人と在日ベトナム人25人の計50人で構成され、在日外国人を対象に英語による仏教サービスを提供しているIBCが受け入れをコーディネートした。

一行は、1日朝に東京を出発し、宮城県仙台市に到着。翌2日には、津波被害の大きい同市若林区荒浜地区を視察し、避難所となっている寺院を慰問し、慰霊祭をすることにした」と来日の経緯を話した。

また、釈廣波法師は、自身の難民体験から、「ゼロからのスタートだった。苦しいときに本当の友だちに会えることは希望である。日本の国難、日本人の苦しみの時に、少しでも恩返し出来るのではと被災地を訪ねた。必ず復興できると信じています」と語り、被災地への義援金の支援も行ったことを報告した。

被災地の慰問を終えた一行は、3日夜、立正佼成会普門館地下ホールで報告会を行い、ハワイ在住の釈通海法師は、「ボートピープルでフィリピンの難民キャンプにいたときに、立正佼成会から物心両面の支援をもらった。震災、原発のニュースを見て、日本、立正佼成会や宗教団体に少しでも恩返しをしたいと連絡を取り合い、被災者の慰問、慰霊祭をすることにした」と来日の経緯を話した。

また、釈廣波法師は、自身の難民体験から、「ゼロからのスタートだった。苦しいときに本当の友だちに会えることは希望である。日本の国難、日本人の苦しみの時に、少しでも恩返し出来るのではと被災地を訪ねた。必ず復興できると信じています」と語り、被災地への義援金の支援も行ったことを報告した。

—大宗連総会—

人権問題と遺伝子操作
記念講演で課題を指摘

（大宗連）総会

21世紀の人権問題を語る北口氏

同和問題にとりくむ大阪宗教者連絡会議（大宗連、五辻信行議長）の2011年度総会が、6月8日午後2時から、大阪市の真宗大谷派難波別院で開かれた。

東日本大震災犠牲者に黙祷を捧げた後、五辻議長があいさつに立ち、「先の大震災など先行きが見えない事象が起こり、原発事故発生による新たな差別も取りざたされている。21世紀の科学技術とメディアの問題について宗教者としてどう取り組むかを再認識し、共に連帯してあらゆる差別を克服していこう」と述べた。

来賓を代表して北口末広部落解放同盟大阪府連合会委員長などがあいさつを行った。

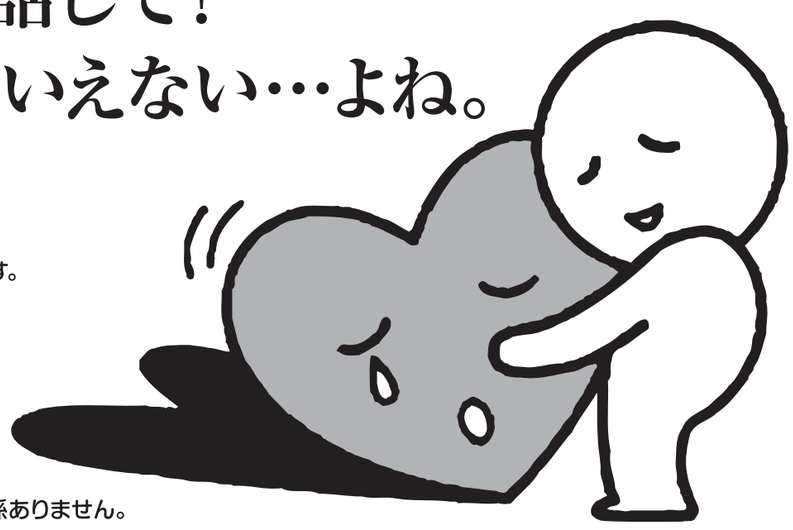
議事に入り、2010年度事業報告、同決算報告が一括審議されて、原案通り承認。2011年度役員・代表委員案、同事業計画案、同予算案も一括上程され、原案通り承認された。東日本大震災の支援について、今年は日本赤十字社を通じ、来年は障がい者団体へ100万円ずつ送ることを決めた。

来賓でもある北口部落解放同盟大阪府連合会委員長が、「21世紀と人権―科学技術・メディア・格差社会を考える」のテーマで記念講演。「日進月歩、秒進分歩とも言え述べた。来賓を代表して北口末広部落解放同盟大阪府連合会委員長などがあいさつを行った。

議事に入り、2010年度事業報告、同決算報告が一括審議されて、原案通り承認。2011年度役員・代表委員案、同事業計画案、同予算案も一括上程され、原案通り承認された。東日本大震災の支援について、今年は日本赤十字社を通じ、来年は障がい者団体へ100万円ずつ送ることを決めた。

来賓でもある北口部落解放同盟大阪府連合会委員長が、「21世紀と人権―科学技術・メディア・格差社会を考える」のテーマで記念講演。「日進月歩、秒進分歩とも言え

ひとりで悩まず電話して！
ホントにつらい時って誰にもいえない…よね。



Befrienders worldwide
WITH SAMARITANS

●東京自殺防止センターは国際ビフレンダーズの一員です。
●私たちは国際ビフレンダーズ憲章に沿って活動しています。

●必要に応じて面接・訪問をしています。
●手紙（FAX）でのご相談にも応じています。
●秘密は守られます。
●相談は無料です（通話料はかかります）。
●金銭的な援助はできません。
●医療・法律・教育関係の助言や指導は、専門家にお願いします。
●特定の思想・宗教・政党などとは一切関係ありません。

NPO法人　国際ビフレンダーズ
東京自殺防止センター
03-5286-9090
年中無休、夜8時から翌朝6時まで
〒169-0072　東京都新宿区大久保3-10-1 日本基督教団シロアム教会内
事務局電話番号　03-3207-5040（FAX同じ）

●全国にある他の自殺防止センター
国際ビフレンダーズ 大阪自殺防止センター
06-6260-4343　毎週金曜、午後1時から日曜、午後10時まで
国際ビフレンダーズ 宮崎自殺防止センター
0985-77-9090　毎週日曜・水曜・金曜、午後8時から午後11時まで
国際ビフレンダーズ 熊野自殺防止センター
05979-2-2277　毎週金曜・土曜、午後7時から午後11時まで
国際ビフレンダーズ 岩手自殺防止センター
019-621-9090　毎週土曜、午後8時から午後11時まで
国際ビフレンダーズ あいち自殺防止センター
0568-70-9090　毎週土曜、午前0時から午前4時まで

震災救援、復興で企画

—「宗教と社会」学会 学術大会—

宗教者の取り組みを報告

統一教会、カルト問題でセッションも

「宗教と社会」学会（櫻井義秀会長）は6月10、11日、北海道札幌市の北海道大学で第19回学術大会を開催。一般研究報告の個人発表が19件、テーマセッションが3部会行われた。また、特別企画として「宗教者・団体による震災救援・復興支援活動の状況報告」が設けられた。

今年の学術大会は当初、開催校が東北大学であったため、東日本大震災の影響により開催が危ぶまれたが、常任委員会において時間をかけた議論の結果、開催日時・開催校の変更を行い開催された。

11日午後零時半から、宗教と社会をめぐる諸問題についての個人発表を3会場で10人が行った。続いて、午後4時半から

それぞれの立場から統一教会について検討した

の「2011年度総会」では、活動報告と収支決算報告、2月26日に開催された関西地区大会の報告や各プロジェクトの活動報告などが報告された。また審議事項では、次期運営体制や次年度学術大会について審議し、それぞれ承認された。

さらに、特別企画「宗教者・団体による震災救援・復興支援活動の状況報告」では、大阪大学の稲場圭信准教授と國學院大學の黒崎浩行准教授が救援と復興に向けて、情報を共有・発信し連携する場として立ち上げた「宗教者災害救援ネットワーク（宗援ネットワーク）」を説明し、宗教者の取り組みについて現状を報告した。また各大学の取り組みとして、大正大学と皇學館大学の災害救援についても報告された。

12日午前9時半から、前日に続き、9人が個人発表を行った。午後に行われたテーマ・セッションは、①「生駒の神々」再訪—後期近代の視点—②宗教社会学・教団研究の現在と社会との接点—櫻井義秀・中西尋子『統一教会』を検討する—③体験談研究における質的方法と量的方法の統合—櫻井義秀・中西尋子『統一教会』を検討する—④概念と構造に着目した国際比較研究—の3部会が行われた。

宗教社会学・教団研究の現在と社会との接点—櫻井義秀・中西尋子『統一教会』を検討する—では、20年にも及ぶ研究の成果を結実させた両氏の著書『統一教会—日本宣教の戦略と韓日祝福—』（北海道出版会、2010年2月刊）を発題者各自の立場から多角的に、現代宗教研究ならびに教団研究としての検討するもの。

宗教社会学・新宗教研究の領域から大正大学の寺田喜朗准教授、宗教学・キャンパスカルト問題対策の領域から恵泉女学園大学の川島堅二教授、法曹・被害者救済活動の領域から東京共同法律事務所の山口広弁護士が同書に対する発題を行い、櫻井・中西両氏が三氏の発題を受け、コメントへのリプライを行った。

質疑応答では、統一教会信者の2世の問題から、「カルト」の定義、今後の研究の展望や期待など、意見が交わされた。

新制度へ向け準備進む

新評議員10人を推薦

WCRP日本委

世界宗教者平和会議（WCRP）日本委員会（庭野日鑛理事長）は6月13日、東京都大田区の日蓮宗大本山池上本門寺で、「東日本大震災と私たち—宗教者のまなざし

宗教者として向き合う

と実践」をテーマに第38回平和のための研究集会を開催した。

研究集会は、東日本大震災に際し宗教者としてどのような視点、考えの基盤に立って向き合うか、また社会へ向けての発信、実践を学ぼうとの趣旨。

はじめに、池上本門寺の僧侶が出仕して震災遭難者慰霊法要を厳修、参加者が平和と復興の祈りを捧げた。同委員会の安田暎胤常務理事（薬師寺長老）の開会あいさつの後、基調講演を同委員会監事で生田神社宮司の加藤隆久氏が行った。

加藤氏は、東日本大震災が16年前の阪神・淡路大震災に比べ、津波、原発事故があり、被害が甚大であることを述べ、神道や仏教、キリスト教などの被災者救援、支援活動を報告。現在も多くの問題が山積しているものの、人々が助け合い、平常心をもって対応していることに「日本人の優れた精神性、人間性が背景にあるのではないか」と分析した。

パネルディスカッションは、パネリストに宮城県石巻市の小野崎秀通曹洞宗洞源院住職、日本基督教団仙台市民教会担当教師の川上直哉、WCRP日本委員会平和研究所副所長の山崎龍明、基調講演者の加藤の4氏。コーディネーターはWCRP日本委員会平和研究所所長の眞田芳憲氏が務めた（写真）。

はじめに震災地からの報告を小野崎、川崎両氏が行った。小野寺氏の洞源院は石巻市渡波の高台にあったため、被災者が駆け込み、約400人が暮らす避難所となった。

最初の一週間は物資が届かず、寺に備蓄していた玄米をおかゆにして分け合った。乱れがちな共同生活を正すため8カ条の約束事を提案。3月末には避難者は約250人と減り、4月1日から朝の勤行を再開した。強要はしなかったが、ほぼ全員が参加するようになったことなどを報告。「一緒に暮らすうちに、一つの大家族のような生活になった」と述べた。

川上氏は、震災後に仙台市内の神道・仏教・キリスト教の有志らと「心の相談室」を立ち上げ、電話で市民の相談に乗っていることや、斎場での諸宗教合同の弔い、移動喫茶やシンポを開催していることを報告。活動が展開できた背景には、各宗教者のネットワークや宮城県宗教法人協議会の協力があり、宗教、宗派の枠を超えた活動を通して「自らの宗教性を問い直した」と感想を述べた。

山崎氏は、原発事故について、脱原発を唱えた物理学者、高木仁三郎氏の「人間は消せない火をつけてしまった」との言葉を引き、「被爆国日本として、原発事故を厳しく問うていきたい」と訴えた。

パネルディスカッションは、パネリストは、尾角光美（「Live on（リヴオン）」代表）、藤澤克己（「自殺対策に取り組む僧侶の会」代表、浄土真宗本願寺派安楽寺住職）、清水康之（NPO法人自殺対策支援センター「ライフリンク」代表、内閣府本府参与）、竹本了悟（京都自死・自殺相談センター代表、浄土真宗本願寺派僧侶）の4氏。

尾角さんは、19歳のときに母を自死で亡くし、自殺に関する講演、自死遺児支援、お寺でのグリーフ（悲嘆）サポートを行っていることを報告、「お寺は昔から地域の拠点で、命と向き合う空間だった。グリーフケアで寺の果たす役割は大きい」と述べた。

藤澤さんは、一人ひとりの自死を取り巻く問題を何とかしたいという〝思い〟の一点で集まった8宗派44人の僧侶で結成していることを紹介。NPO化しないのは「思いを一緒にできる人と活動するため、会員が僧侶だけなのは相談者や利用者に分かりやすいようにした」と話した。

清水さんは、NHKテレビ「クローズアップ現代」の担当ディレクターのとき、自殺で亡くなった520人を超える人々の取材をしたことに触れ、「連鎖倒産か自殺かと追い込まれ、死を強いられた現実が突き付けられた。社会構造上の問題を分析して是正し、生きていける社会を作るべき」と述べた。

しかし、「自殺の実態が警察の中だけで保管されて、それが明かされていない現実、状況がある。それを共有できる仕組みを作るべく、内閣府参与として発言している」と述べた。

竹本さんは、「自死遺族の方から話を聞き、現場で自分に何かもっとできるのではないか、キリスト教の牧師さんから僧侶にも取り組んでほしいと背中を押されたから」と述べた。自死のことだけでなく、自死にまつわるさまざまな苦悩にかかわって行こうとNPO法人として活動していることを話した。

質疑に入り、「仏教ならではのできること」について、藤澤さんは「つらいことがあったとき弱音を吐いてよい。プロセスにしっかり向き合うことが仏教の教え」と述べた。竹本さんは「死にたいと言われて電話を切った後、その重大さに挫けそうになるが、自分の信仰で立っていける」、尾角さんは「弔いのお経をあげてもらうことで救われたと聞く」、清水さんは「弔いは遺された方への支援。宗教の中に自問自答し苦悩している人への手掛かりがある」とそれぞれ話した。

最後に講師を務めた山折さんは、「遺族の苦しみとどう向き合うかについて、私個人として絞り込むならば、祈ることしかない」と思いを述べた。

現在、宮城県石巻市に現地事務所を置き、避難所の運営協力、炊き出し、汚泥撤去ツールの提供などの活動を行っている。この中で木山氏は、被災地全体で復興の進みが遅いこと、被災者の間で格差が広がってきている現状を説明した。

その原因として、行政側の方針が決まらず、被災者も民間支援団体も長期計画が立てられないでいることが大きく、また支援活動の分野別調整が遅れていることなどの問題も指摘した。

最後に木山氏は、東日本大震災は長期にわたる復興活動が必要であるとし、継続的支援を呼びかけた。

冒頭、日蓮宗の酒井管長があいさつ

震災復興

継続的支援呼びかけ

JEN支援者の集い

特定非営利活動法人「ジェン」（JEN、吉岡健治／赤川惠一共同代表）は6月18日午後1時半から、東京都内で「2011年JEN支援者の集い」を開催した。

開会に続き、2010年の海外事業、国内事業などの報告が行われた。この後、木山啓子事務局長が「東日本大震災支援」について現状を報告（写真）。

往く「いのち」を考える

自殺問題に仏教ができること

浄土宗・きょうとNPOシンポ

浄土宗とNPOセンターは「きょうとNPOセンター」主催の「往（い）く「いのち」を考える」シンポジウムを開催した。

「いのち」につながる私たちのとり組み～お寺とNPOの実践から～」をテーマとしたシンポジウムが、6月11日午後1時から京都市の「ひと・まち交流館 京都」で開かれた。

伊藤唯眞浄土門主の開会あいさつの後、国際文化日本研究センターの山折哲雄名誉教授が「『いのち』について」のテーマで基調講演を行った。

「1854年の安政南海地震で和歌山に津波が襲って来たとき、多くの人を救った浜口儀兵衛の伝記『稲むらの火』が今春小学校5年生の国語教科書に64年ぶりに復活したのに、津波の描写が子どもに影響を及ぼすと代替教材になったことは、思想における風評被害ではないだろうか」と投げかけた。

「この伝記の背後に、長者が自分の邸宅が火事になったとき、遊びに夢中になっている子どもたちを門の外に導き出して全員を助けた、法華経の比喩物語『三車火宅』がある。それは教材の対象にすらされなかった。せめて宗教界だけでも歴史的伝統を無視せず見直していくことをしてほしい」と述べた。

明治以降、多くの文学者や思想家たちが自殺し、その死を賛美し、憧れの対象とする風潮に触れ、「日本には自殺文化と言っていいものが内在している」と述べた。そして「一因が無常観である。人は生きて必ず死ぬのである」『ノアの箱舟』に形容される生き残る在り方と、もれなく救うという『三車火宅』の考え方を今後どう生かすか考えること」と指摘した。

お寺の役割
4氏が提言

続いて「お寺とNPOのパートナーシップの可能性を探って」をテーマにパネル討論が行われた。コーディネーターは宮坂直樹さん（浄土宗総合研究所研究員）、パネリストは、尾角光美（「Live on（リヴオン）」代表）、藤澤克己（「自殺対策に取り組む僧侶の会」代表、浄土真宗本願寺派安楽寺住職）、清水康之（NPO法人自殺対策支援センター「ライフリンク」代表、内閣府本府参与）、竹本了悟（京都自死・自殺相談センター代表、浄土真宗本願寺派僧侶）の4氏。

尾角さんは、19歳のときに母を自死で亡くし、自殺に関する講演、自死遺児支援、お寺でのグリーフ（悲嘆）サポートを行っていることを報告、「お寺は昔から地域の拠点で、命と向き合う空間だった。グリーフケアで寺の果たす役割は大きい」と述べた。

藤澤さんは、一人ひとりの自死を取り巻く問題を何とかしたいという〝思い〟の一点で集まった8宗派44人の僧侶で結成していることを紹介。NPO化しないのは「思いを一緒にできる人と活動するため、会員が僧侶だけなのは相談者や利用者に分かりやすいようにした」と話した。

清水さんは、NHKテレビ「クローズアップ現代」の担当ディレクターのとき、自殺で亡くなった520人を超える人々の取材をしたことに触れ、「連鎖倒産か自殺かと追い込まれ、死を強いられた現実が突き付けられた。社会構造上の問題を分析して是正し、生きていける社会を作るべき」と述べた。

しかし、「自殺の実態が警察の中だけで保管されて、それが明かされていない現実、状況がある。それを共有できる仕組みを作るべく、内閣府参与として発言している」と述べた。

竹本さんは、「自死遺族の方から話を聞き、現場で自分に何かもっとできるのではないか、キリスト教の牧師さんから僧侶にも取り組んでほしいと背中を押されたから」と述べた。自死のことだけでなく、自死にまつわるさまざまな苦悩にかかわって行こうとNPO法人として活動していることを話した。

質疑に入り、「仏教ならではのできること」について、藤澤さんは「つらいことがあったとき弱音を吐いてよい。プロセスにしっかり向き合うことが仏教の教え」と述べた。竹本さんは「死にたいと言われて電話を切った後、その重大さに挫けそうになるが、自分の信仰で立っていける」、尾角さんは「弔いのお経をあげてもらうことで救われたと聞く」、清水さんは「弔いは遺された方への支援。宗教の中に自問自答し苦悩している人への手掛かりがある」とそれぞれ話した。

最後に講師を務めた山折さんは、「遺族の苦しみとどう向き合うかについて、私個人として絞り込むならば、祈ることしかない」と思いを述べた。

護摩供で東日本大震災犠牲者慰霊と復興祈願

「修験道」は実践宗教

自然に畏怖、畏敬の心を

奈良県宗教者フォーラム

「神と仏と日本の心—修験道を考える—」をテーマに第8回奈良県宗教者フォーラム（田中利典実行委員長）が5月28日午後、奈良県吉野町の吉野山ふるさとセンターで開催され、一般市民をはじめ宗教者など約300人が参加した。

フォーラムに先立ち、午後1時から金峯山修験本宗総本山金峯山寺の蔵王堂で、「東日本大震災慰霊追悼及び復興祈願祭」が厳修された。修験行者が法螺貝を吹きながら先導して、参加者がふるさとセンターから蔵王堂に歩を進めた。五條覚堯金峯山寺管長の大導師により、般若心経などを読誦し、護摩供を行った。

フォーラムは午後2時に開会し、主催者を代表して狭川普文副実行委員長（東大寺執事長）が開会あいさつ。来賓を代表して五條金峯山寺管長、奥田喜則奈良県副知事があいさつを行った。この中で五條管長は「大震災、福島原発事故など、平成の困難を乗り越えるために、今こそ宗教者が心を一つにして祈っていくことだと思う」と述べた。

基調講演は、実行委員長の田中金峯山寺執行長が「修験道入門」と題して行った。田中氏は冒頭、福島原発の事故に触れ、「『想定外』という言葉はおかしいのではないか。自然は恵みと脅威を与えるもので、自然への畏怖、畏敬を忘れているのではないか」と自然から離れた文明への警鐘を鳴らした。

修験道とは何かということについては、「①山の宗教、山伏の宗教であり、自然が道場②宗派を超えた実践宗教で、実修実験、修行得験の道③神仏習合を基盤とする極めて日本的で、多神教的な宗教」と述べた。

そして「神と仏の距離は、現代人には想像もできないくらい近かった。神と仏が争わず、互いを敬い祀りあう関係こそ、日本独特の民俗宗教である。日本に仏教が伝来したのは、1450年前くらいで、仏を神の一種として受け入れたが、『蕃神』と呼んだ事実からも分かること。その結果、権現信仰のような神と仏を融合させた信仰さえ生んだ」と説明した。

この後、「歴史にみる修験」をテーマにパネルディスカッション。コーディネーターを岡本彰夫春日大社権宮司、パネリストを岩田長太郎天理教総務部長、狭川東大寺執事長、田中金峯山寺執行長、鈴鹿義胤高鴨神社宮司が務め、神道、仏教、天理教と修験道の関わり、歴史に触れた。

なお、来年、再来年のフォーラムも「修験道」をテーマに開催することになっている。

自死遺族と仏教の役割をディスカッション

書評

〝人間の生きる心〟求め

ホームレス歌人のいた冬　三山 喬著

2009年2月16日の朝日新聞朝刊の社会面に、「ホームレス歌人さん 連絡求む」という見出しが躍った。その前年の暮れ、朝日歌壇に「ホームレス 公田耕一」と名乗る歌人が登場した。新聞歌壇ではレベルの高い朝日歌壇に初登場以来、ほぼ毎週のように入選を重ねた。経歴も年齢も不明だが、投稿数に比例して読者の〝気になる存在〟度は高まるばかり。

公田耕一さんが初投稿した歌は、スペインの画家・サルバドール・ダリの代表作『記憶の固執』に描かれた、ぐにゃと溶けた「柔らかい時計」をモチーフに、「（柔らかい時計）を持ちて炊き出しのカレーの列に二時間並ぶ」と詠んだ。炊き出しの順番を待つ忍耐力を表わすのか、あるいは空腹の中で時間感覚が溶けてしまったことを指しているのかわからないが、以降、公田さんが寄せた歌は選者4人の評が高く、驚くべきペースで紙面に登場した。

しかし投稿者住所・氏名が「ホームレス 公田耕一」としか記されていないため、入選一首につき、はがき10枚の謝礼が宙に浮いていることを歌壇担当記者が、公田さんに呼びかけたものだった。が、公田さんは名乗り出ることもせず、計35首を残し、約9カ月の投稿を終え、忽然と紙面から姿を消してしまった。

閉塞感と人間への愛

お伽草紙　太宰 治著

日本で最も閉塞感が強い時期は、先の大戦争末期であろう。日本の文学者の大半は御用文学者に堕してしまった。それどころか、創作活動すら中止してしまった文学者も多かった。絶望的な閉塞感の時期、太宰治一人が、『右大臣実朝』『新釈諸国噺』『惜別』『お伽草紙』『新釈諸噺』『お伽草紙』以外に、『盲人独笑』『清貧譚』『竹青』が収められている。すべて、大戦争末期に書かれたものだ。一言で言えば「人間への愛」を感じさせる作品である。「暗い」「病的」という太宰のイメージがあるが、少なくとも閉塞感最大の時期の作品は、「人間への愛」である。

瘤取り爺さんは、正直爺さんと意地悪爺さんの話ではなく、二人とも普通の爺さんである。一人は、ちゃらんぽらんなお笑い系のお爺さん、見知らぬ鬼の宴会に浮かれて踊りだすのだから朗らかだが取柄。他方の堅物系のお爺さんは、鬼の宴会では緊張のあまり身体がコチコチ。普通に考えれば、鬼の宴会で面白おかしく踊りをできるわけがない。瘤取りの話は、人間の良し悪しではない。どちらも、普通のお爺さんなのだ。たまたま、性格が違っていた過ぎない。人間生活には、こうした悲喜劇が流れている。

閉塞感打破の決め手は、人間への深い洞察力にもとづく「人間への愛」と思う。（新潮文庫 定価545円）

（太田 哲二）

【訂 正】

前号（1018号）4面「書評」の書籍『葬式をしない寺—大阪・慶典院の挑戦』は「岩波新書」ではなく、「新潮新書」です。訂正いたしますとともに、関係各位にお詫び申し上げます。

〝人間の生きる心〟求め

ホームレス歌人のいた冬　三山 喬著

2009年2月16日の朝日新聞朝刊の社会面に、「ホームレス歌人さん 連絡求む」という見出しが躍った。その前年の暮れ、朝日歌壇に「ホームレス 公田耕一」と名乗る歌人が登場した。新聞歌壇ではレベルの高い朝日歌壇に初登場以来、ほぼ毎週のように入選を重ねた。経歴も年齢も不明だが、投稿数に比例して読者の〝気になる存在〟度は高まるばかり。

公田耕一さんが初投稿した歌は、スペインの画家・サルバドール・ダリの代表作『記憶の固執』に描かれた、ぐにゃと溶けた「柔らかい時計」をモチーフに、「（柔らかい時計）を持ちて炊き出しのカレーの列に二時間並ぶ」と詠んだ。炊き出しの順番を待つ忍耐力を表わすのか、あるいは空腹の中で時間感覚が溶けてしまったことを指しているのかわからないが、以降、公田さんが寄せた歌は選者4人の評が高く、驚くべきペースで紙面に登場した。

しかし投稿者住所・氏名が「ホームレス 公田耕一」としか記されていないため、入選一首につき、はがき10枚の謝礼が宙に浮いていることを歌壇担当記者が、公田さんに呼びかけたものだった。が、公田さんは名乗り出ることもせず、計35首を残し、約9カ月の投稿を終え、忽然と紙面から姿を消してしまった。

閉塞感と人間への愛

お伽草紙　太宰 治著

日本で最も閉塞感が強い時期は、先の大戦争末期であろう。日本の文学者の大半は御用文学者に堕してしまった。それどころか、創作活動すら中止してしまった文学者も多かった。絶望的な閉塞感の時期、太宰治一人が、『右大臣実朝』『新釈諸国噺』『惜別』『お伽草紙』以外に、『盲人独笑』『清貧譚』『竹青』が収められている。すべて、大戦争末期に書かれたものだ。一言で言えば「人間への愛」を感じさせる作品である。「暗い」「病的」という太宰のイメージがあるが、少なくとも閉塞感最大の時期の作品は、「人間への愛」である。

瘤取り爺さんは、正直爺さんと意地悪爺さんの話ではなく、二人とも普通の爺さんである。一人は、ちゃらんぽらんなお笑い系のお爺さん、見知らぬ鬼の宴会に浮かれて踊りだすのだから朗らかだが取柄。他方の堅物系のお爺さんは、鬼の宴会では緊張のあまり身体がコチコチ。普通に考えれば、鬼の宴会で面白おかしく踊りをできるわけがない。瘤取りの話は、人間の良し悪しではない。どちらも、普通のお爺さんなのだ。たまたま、性格が違っていた過ぎない。人間生活には、こうした悲喜劇が流れている。

閉塞感打破の決め手は、人間への深い洞察力にもとづく「人間への愛」と思う。（新潮文庫 定価545円）

（太田 哲二）

【訂 正】

前号（1018号）4面「書評」の書籍『葬式をしない寺—大阪・慶典院の挑戦』は「岩波新書」ではなく、「新潮新書」です。訂正いたしますとともに、関係各位にお詫び申し上げます。